

分担金・拠出金の名称	国際連合ボランティア計画拠出金（日本UNV協力事業）		評価	B
拠出先の国際機関名	国連ボランティア計画（UNV）			
国際機関の概要	UNVは総会決議により設立。事務局本部はボン。UNDP(国連開発計画)により管理・運営が行われている。技能、資質に恵まれた専門的知識を有する人々が自発的に開発、人道援助、平和構築等の現場に参加し、ボランティア動員・ボランティア活動の推進を通じて途上国の平和の開発に貢献することを目的としている。具体的には、国連・国際機関、途上国政府等の要請に基づき、国際・国内ボランティアを派遣して、当該機関・政府による事業等の推進に当たっている。主な派遣先としては、UNDP、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、WFP(国連世界食糧計画)、UNICEF（国連児童基金）などがある。			
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標			達成状況	
1.（１）成果目標：UNVへの拠出を通じて、我が国の重要外交開発課題の遂行を促進し、我が国実施事業との相互補完性を高める 活動指標：UNVの我が国重点開発課題への貢献、日・UNV戦略対話の実施、我が国グローバル人材育成への貢献			UNVは、TICADや直近では第3回国連防災世界会議にも出席し、並行してボランティア関連のサイドイベントを実施する等、我が国重要外交開発課題の遂行にも積極的に貢献。 また、2014年から日・UNV戦略対話を実施し、邦人ボランティアの派遣先や地域別事業についても重要外交政策課題及び相互補完性を高める観点から協議を実施。さらに、UNVは本件拠出金も活用して、2012年に発表された国連事務総長の5カ年行動計画に基づく国連ユース・ボランティアのパイロット事業を我が国の大学と提携して実施。これは、我が国グローバル人材育成にも資するもの。なお、当該パイロット事業は先駆的な成功例として各国に紹介され、各国同様事業のロールモデルとなっている。	
(2) 成果目標：機関の意思決定における我が国のプレゼンスの強化を図り、発言力・影響力を確保する 活動指標：UNVの管理・運営を行うUNDPの最高意思決定機関である執行理事会の議席確保、ボランティア関連の国連総会決議への貢献、日・UNV戦略対話の実施			我が国はUNDPの執行理事会（コア・ファンド拠出順位に基づき決定）の議席を、2007－2021年中3年間（2009年、2014年、2019年）を除いて確保している。 また、我が国は、2001年のボランティア国際年決議（1997年：第52回国連総会）、2011年のボランティア国際年10周年決議（2008年：第63回国連総会、2011年第66回国連総会）、ボランティア主流化決議（2012年：第67回国連総会）において採択に向け主導的役割を果たしており、我が国は国連におけるボランティア活動推進分野で大きなプレゼンスを示している。 さらに、日・UNV戦略対話を始めとする数々の協議を通じて我が国の意見を反映させるよう働きかけている。	
(3) 成果目標：国連機関唯一のボランティア派遣組織であるUNVへの拠出・貢献を通じて我が国の意見を反映。UNDP内部監査、国連会計監査委員会による外部監査、UNVが適切な組織・財政マネジメントを行う 活動指標：UNVによるボランティア派遣の活動実績、UNVの組織・財政マネジメント向上努力			UNVは毎年概ね130か国弱の国に国連ボランティアを派遣して活動を行っているが、我が国は上記1、2で言及のとおり、日・UNV戦略対話等の機会を通じて、我が国の関心課題等がUNVの活動に反映されるよう関与。 UNVはディクタス現事務局長の下、組織・財政マネジメントの向上努力を図っており、昨年RBMセクションを設置して組織改善を行っているほか、ドナー向けの現場視察ツアー等も実施して活動の透明性確保や広報も図っている。また、UNV駐日事務所の業務内容を見直し拠出金執行状況のモニタリング体制を強化。	
(4) 成果目標：UNVにおける幹部を含む邦人職員増強 活動指標：邦人職員の増強			日本人職員（専門職以上）は、2012年から幹部職員1名（Dレベル：UNV全体で5名中の1名）を確保。	
2. PDCAサイクルの確保			①計画段階（Plan）：日・UNV戦略対話の協議結果、わが国の関連政策、国連側のニーズ等に照らしつつ予算要求。 ②実施段階（Do）：予算拠出。事務局長訪日時を含む不定期の協議等を通じてUNVの活動をモニタリング。 ③評価段階（Check）：UNDP内部監査、国連会計監査委員会による外部監査報告書により成果を評価。 ④フォローアップ（Act）：UNDP執行理事会、日・UNV戦略対話等の機会を通じ、必要に応じて改善を提言。	
担当課・室名	国際協力局 地球規模課題総括課			